



JA横浜が掲げる「人と自然を大切にし、社会の発展と豊かな暮らしの実現に貢献する」という理念は、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」と共通するものです。

当JAの行う各事業はSDGsの目標と親和性が高く、ともにめざす社会・未来は同じです。当JAは、農業協同組合として各事業を展開しSDGs達成に向けて取り組みます。



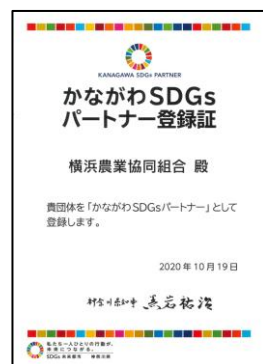
JA横浜  
代表理事組合長  
柳下 健一

## 横浜市SDGs認証制度に登録しています

### 横浜市SDGs認証制度



(横浜市SDGs認証制度 / 私たち)は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



## かながわSDGsパートナーに登録しています



### KANAGAWA SDGs PARTNER

神奈川県 | SDGs未来都市 私たち一人ひとりの行動が、未来につながる。



## JA横浜の共有ビジョン



JA横浜は「食」と「農」を基軸とする協同組合です。

当JAは、事業活動を通じて安全・安心、新鮮な農畜産物を提供することを使命としています。

農業は消費者の皆さまへ提供する食料などの生産を通じ、地域の経済や社会を豊かにするとともに、地域の環境や景観の保全に寄与するなど、食と農と水を守る多面的な役割を果たしています。

私たちは、「食」と「農」を基軸とする地域に根ざした農業協同組合として、SDGsの達成をめざします。

「もったいない」を「美味しい!」に  
～人気果実を有効活用した6次産業化～



天候不順などの理由から規格外品となった横浜のブランド梨「浜なし」を有効利用するために開発したSDGs商品です。

『「もったいない」を「美味しい!」に』を合言葉に商品企画を行っています。



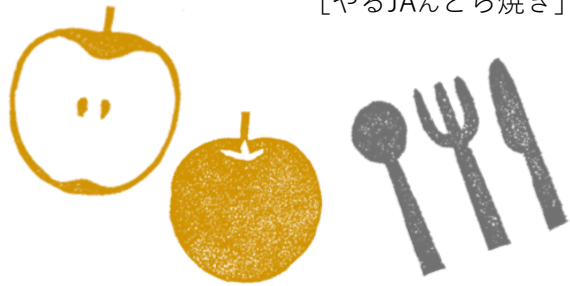
[やるJAんカレー]



[やるJAんバウム] (左)  
[やるJAんどら焼き] (右)



[横浜ハーバー幻の浜なし]



規格外野菜やSDGs商品に特化した直売  
～やるJAんマルシェ～

市場や直売所に出荷できない農産物(規格外野菜)を販売することで、規格外野菜の廃棄量を減らし、地域と生産農家へ還元することを直売コンセプトにしています。また、廃棄予定の浜なしピューレを活用した「やるJAんシリーズ (SDGs商品)」のカレー・どら焼き・バウムクーヘンなどの加工品販売も行っています。



[BALLPARK FANTASIA2022出店の様子]



[新横浜公園ピクニックパーク出店の様子]



# このようなSDGsに取り組んでいます！

No.2



## 農業の振興を支える出張販売 ～都市と産地の連携～

企業や官公庁、集合住宅等へのお出張販売などを通じて横浜産の農畜産物の美味しさを広くお伝えしています。



[横浜市庁舎での出張販売の様子] (左)  
[JA横浜移動販売車(ハマツチマルシェ)] (右)

## 農業と福祉の連携による労働力の支援 ～農福連携の推進～



[農作業の様子]

障がい者の就労機会の創出と農家の労働力支援強化を目的として、農福連携の試験運用を実施しました。

令和5年度から、本格運用を開始します。

## 子どもたちの「未来」をつくろう ～子どもの未来支援助成～



[子どもの未来支援助成の募集ポスター(一部抜粋)]  
(募集期間：R4.11.21～12.26)

横浜市内には「子どもの貧困」という社会課題に向き合い、食の支援、学びの支援、安全な居場所づくりなどに取り組んでいる市民団体が多くあります。多様で見えにくい貧困の状況に対して、市民同士の助け合いで、子どもたちの「今」を支え子どもたちの「未来」をつくろうという活動を応援しています。

## SDGsの普及 ～市内の高校へ出張授業～



[JA横浜職員による市内高校でのSDGs講話]

横浜市内の高校でSDGsの取り組みを普及するため、出張授業を行っています。

## まだ食べられる食品を困っている方へ ～フードバンク～



[フードバンクかながわへの物資贈呈]

十分安全であるにもかかわらず使用されない食品を、支援を必要としている方々へお届けする取り組みです。当JA女性部も「フードバンクかながわ」に協賛しています。